

原子力機構における将来ビジョン「JAEA 2050+」の策定

Formulation of “JAEA 2050+” future vision at JAEA

*前川 恵輔¹, 永井 俊尚¹, 小野 清¹

¹JAEA

発足後 15 年目を迎えた JAEA は、将来にわたり社会に貢献し続けるために、何を目指し、何をすべきかという将来の姿を、将来ビジョン「JAEA 2050+」に取りまとめ、公表した。将来の気候変動問題の解決、エネルギーの安定確保、未来社会の実現への貢献を目指した原子力科学技術による取組の概要を紹介する。

キーワード： 将来ビジョン

1. 緒言

将来社会の持続的な発展には、科学技術の発展と社会実装が必要である。そのために、JAEA は、研究開発機関として、様々なポテンシャルを秘めた原子力科学技術の一層の安全性向上と、イノベーションの創出に向けた取組を進めていくこととした。JAEA の将来の姿を将来ビジョンとして取りまとめた。

2. JAEA の将来ビジョン

2-1. 策定の背景・進め方

JAEA が将来にわたり社会に貢献し続けるために、若い世代を念頭に置き、現在の新入職員が事業に携わる 30 年後（2050 年）を見据えることとした。取りまとめに当たっては、JAEA の中核を担う 100 名余りの若手職員の意見を取り入れながら議論を進め、外部の有識者からの意見を反映した。

2-2. 将来社会に向けた目標

将来社会の変革として挙げられている気候変動問題の解決に向けた脱炭素社会への移行[1]や、将来社会に不可欠なエネルギーの安定確保、わが国が掲げている未来社会（Society5.0）の実現に貢献するために、“新原子力”の取組を進めていくこととした。これは、国内外の様々な分野との協働・融合により、原子力科学技術のポテンシャルを最大限に引き出すことを目指している。その際、社会に受容される上で解決すべき倫理的、法的、社会的問題（ELSI）を十分認識し、社会との双方向による対話とともに取り組んでいく。

2-3. 将来社会に向けた取組

“新原子力”の実現のために 6 つの研究テーマを設定し、多岐にわたる研究開発を横断的・戦略的に進め、バックエンド問題への着実な取組により持続可能な原子力利用のための挑戦を継続する。その際、国際協力や地域の発展への貢献、原子力だけでなく他分野との連携・協働を通じた人材の確保・育成等を図っていく。

3. 結論

JAEA は、今回策定した将来ビジョンを踏まえ、戦略や計画の具体化を図り、将来の社会環境に柔軟に対応しながら、社会に貢献し続ける組織を目指していく。

参考文献

[1] パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略、2019 年 6 月 11 日閣議決定

*Keisuke Maekawa¹, Toshihisa Nagai² and Kiyoshi Ono¹

¹JAEA



図 将来ビジョンの全体像